

コンケン大学教育学部における SEND プログラムの実践

—タイ東北地域の中等学校における日本プロモーション活動—

高橋 美紀・スヤラー ワッチャラー

要 旨

コンケン大学教育学部日本語教育課程では 2014 年度より WSP に参加し、日本語・日本文化プロモーション、日本留学プロモーションを行った。また WSP 関係教員にコンケン大学教育学部日本語教育ワークショップの講師を担当していただいた。WSP 学生との交流で中等学校の生徒たちは日本語学習の意欲が高まり、日本語学習の動機づけとして大きな効果が見られた。また、TJL 学生にとっても WSP 学生とともに活動を作り出すことは、来年度の実習につながるより実践的な体験となった。

キーワード

日本プロモーション 日本語教育ワークショップ タイ 中等教育

1. はじめに

コンケン大学教育学部日本語教育課程（以下 TJL）では 2014 年度より Waseda SEND Program（以下 WSP）の学生の受け入れを行い、教育実習生とのチームティーチング実習、4 年生との日本語・日本文化プロモーションを行った。また、プログラム最終年度となる 2016 年度には、附属中等学校へ日本留学プロモーションを行ったほか、WSP コーディネーター鈴木伸子先生とトンプソン美恵子先生にコンケン大学教育学部日本語教育ワークショップの講師を担当していただいた。チームティーチング実習については本特集の別稿「コンケン大学教育学部における SEND 協働の実践研究」に詳しく述べた。本稿では 4 年生との日本語・日本文化プロモーション、附属中等学校を訪問して行う日本留学プロモーション、実習生や現職教員を対象とした日本語教育ワークショップについて述べる。

2. 実践の概要

2.1 日本語・日本文化プロモーション

TJL では毎年「日本語・日本文化プロモーション」と称して、日本語教育をこれから始めたいと考えている中等学校や日本語教育を始めたばかりの中等学校を訪問し、日本の遊びなどを通して生徒たちに日本を紹介する活動を行っている。2014 年度と 2015 年度は TJL4 年生約 30 人と WSP 学生 3 人で大学から車で 30 分程度のファーンウィタヤー中等

学校で活動を行い、それぞれ約 70 人の生徒が参加した。この学校は教育実習生である 5 年生が実習校として派遣されているが、専任のタイ人日本語教員はおらず、外国語教育担当の現場指導教員が英語、日本語、中国語教育を取りまとめている。活動の内容は、生徒たちをグループに分け、それぞれの教室や広場で 2014 年度は書道、消しゴムハンコ作り、万華鏡作り、日本の遊び、フルーツバスケットの各活動を 30 分ごとに教室を移動して行うというものであった。2015 年度は、前年度に活動数が多すぎ消化不良の面があったことから日本クイズ、フルーツバスケット、ゆかたの三活動に絞り行った。

2016 年度は TJL4 年生 41 人と WSP 学生 4 人で大学から車で一時間半のマハーサーラカム県にあるサーラカムピットヤークム中等学校で活動を行った。この学校は 2016 年度より日本語が専門科目となり、専任教員と非常勤教員として本課程卒業生がそれぞれ雇用されている学校である。活動内容は日本クイズ、フルーツバスケット、ゆかたと「だるま」と名付けたオリジナルゲームの四活動を行った。

2.2 日本留学プロモーション

WSP 学生とともに活動を行う TJL 実習生の多くは教員採用試験に合格し、タイ中等教育公務員日本語教員養成研修の専門研修を国際交流基金で受けることになっている。また、同様に日本語・日本文化プロモーション活動を行う 4 年生は次年度に実習があるため、WSP 後の日本留学に対する直接的な効果はない。そこで、2016 年度に新たな試みとして附属中等学校 2 校を訪問し、WSP 学生が日本留学について直接説明する日本留学プロモーションを行った。タイの中等学校は学校年度が 5 月から 3 月までである。大学に進学する場合、高校修了の 4 月から大学の学校年度が始まる 8 月まで、約 4 か月間の待機期間がある。この期間に日本への短期留学の提案をし、日本への興味関心を高めてもらうことが、日本語学習を続ける動機づけになると考えた。

WSP 受け入れ最終日の午前 9 時より附属中等学校（スクサーサート校）、11 時より附属中等学校（モーディンデーン校）を訪れ、約一時間の説明会を行った。スクサーサート校は約 25 人、モーディンデーン校は約 65 人の生徒と担当教員が WSP 学生の説明を真剣に聞いていた。日本の大学での専門や大学生活についての説明の後に質疑応答の時間をもうけた。専門や入試、奨学金についての質問が多く寄せられた。

2.3 日本語教育ワークショップ

TJL では毎年、年二回の日本語教育ワークショップを開催している。参加者は TJL 実習生、現職タイ人教員、日本人教員で、毎回日本語や日本語の教え方に関する様々なテーマを扱っている。2016 年度は 8 月 27 日 28 日に行われ、講師として WSP コーディネーター鈴木伸子先生とトンプソン美恵子先生に来ていただいた。参加者は 60 人であった。テーマは鈴木先生が「論理的でわかりやすい日本語表現—社会人にとって敬語よりも大切なこと—」で、言いたいことを PREP パターンを使って聞き手にわかりやすく伝えることを考えるものであった。トンプソン先生は「ピアでふり返る日本語教育実践—事例とティーチングポートフォリオを活用した内省の試み—」というテーマで、一日目は事例から日々の実践をふり返る、二日目は「TP チャート」で実践を全体的にふり返るという内容であつ

た。

また、今回のワークショップにはコンケン大学の ASEAN 交流プロジェクトの一環としてラオス国立大学より教員 5 人と学生 15 人を招待した。ラオスの学生は鈴木先生のワークショップのみ、教員は全ワークショップに参加した。

3. 生徒の変化と教員の気づき

3.1 生徒たちの変化

タイ東北地域において日本人が在籍する学校以外の児童や生徒は日本人と接触する機会ほとんどなく、児童生徒への学習の動機づけは大きな課題である。WSP 学生が活動に参加することによって、中等学校の生徒も WSP 学生のことが知りたい、もっと WSP 学生と日本語で話したいと積極的に活動に参加し、現職教員や TJL 実習生学生に日本語の助言を求める姿が見られた。WSP 学生を含めたプロモーション活動は、生徒たちにとって日本語を使う必然性が生まれ、その後の日本語学習の意欲につなげるものとなった。

WSP 学生が訪問した学校では将来日本へ行ってみたいという希望を持つ児童生徒がいた。来年の再訪を熱望する生徒がどの学校でも見られた。活動に参加することができた生徒だけでなく、参加できなかった生徒も高い興味や関心を示していた。日本語を学習する生徒の中には、将来日本語教員になりたい、日本の大学に進学したいという希望を持つ者もいた。

2016 年度日本語日本文化プロモーションの生徒の感想の一部

- ・ ติใจที่ได้มาทำกิจกรรมนี้ ทำให้ได้ความรู้มาได้สนทนากับคนญี่ปุ่น ประทับใจ
 มากๆค่ะพี่ๆน่ารักทุกคนเลย #ชอบพี่ marina (活動をしに来てくれてとてもうれ
 しかったです。いろいろなことを教えてもらいました。日本人と話せて、うれしかった。
 大学生のみなさんはかわいいです。 #マリナさんが好き)
- ・ ติใจที่มีกิจกรรมภาษาญี่ปุ่นแบบนี้ขึ้นเพราะนอกจากจะได้ภาษาญี่ปุ่น คำศัพท์แล้ว
 ยังได้รู้การเตรียมตัวสำหรับการสอบเข้ามหาวิทยาลัยขอนแก่น ดีใจมาก ๆ พี่ ๆ
 ญี่ปุ่นน่ารักมาก พี่ ๆ ทุกคนก็น่ารักเหมือนกัน ดีใจคะมาอีกนะคะ (このような日本語
 の活動があって、うれしかったです。日本語のことだけではなく、大学入試について
 の準備も知ることができました。日本人のみなさんもかわいくて大学生のみなさん
 もかわいくてうれしいです。また来てください。)
- ・ ชอบกิจกรรมแบบนี้ทำให้ได้รับความรู้และได้รู้เกี่ยวกับภาษาญี่ปุ่นและวัฒนธรรม
 พี่ ๆ น่ารักมากเลย (学びがあるこのような活動が大好きです。日本語と日本文化を
 知ることができました。大学生のみなさんはとてもかわいいです。)
- ・ รู้สึกติใจที่ได้มาเจอคนญี่ปุ่น พวกเขาน่ารักมาก อยากไปญี่ปุ่นและเรียนต่อที่ญี่ปุ่น
 (日本人に出会えてとてもうれしい。日本人はとてもかわいいです。日本へ行って、
 日本で進学したいです。)
- ・ ชอบประเทศญี่ปุ่น ชอบภาษาญี่ปุ่น ชอบอาหาร วัฒนธรรม ทุกอย่างที่เป็นญี่ปุ่น
 ติใจที่วันนี้ได้รับความรู้จากพี่ ๆ ถ้าเป็นไปได้อยากเข้าศึกษาต่อที่คณะศึกษาศาสตร์สาขาการสอนภาษาญี่ปุ่น (日本が好きです。日本語が好きです。日本料理、文

化、日本のこと全部が好きです。今日は大学生のみなさんからいろいろなことを教えてもらえて嬉しかったです。できれば、TJLで学びたいです。)

- ・ **สนุกมาก ๆ เลยค่ะอยากให้มีอีกอาทิตย์นึงมากค่ะพี่โตเติ้ลก็น่ารัก พี่ตัดต่อตลกค่ะชอบคุณที่พยายามเล่นมุก** (とても楽しかったです。とてもかわいいやよいさんにまた来てほしいです。タイトンさんもかわいいです。トットさんはおもしろいです。楽しませてくれてありがとうございます。)

3.1 TJL 学生と指導教員の気づき

WSP 学生と交流する生徒を直に見ることによって、TJL 学生にとっては日本人（以下 NS）が活動に参加したときの生徒の反応やタイ人（以下 NNS）の役割を実感する機会となった。生徒たちはより意欲的になり、NNS の助けを借りながら日本語を話そうとする姿がみられた。これは、NNS だけの活動では見られないものである。また、TJL 学生にとっても 4 年間の日本語学習の成果を表す場となっていた。

活動後の訪問校の教員との情報交換では、TJL 学生と WSP 学生の活動から生徒は真正性のある日本語でのコミュニケーションを求めており、その後の学習意欲に大きな影響を与えているという声がどの学校からも聞こえた。

NS と NNS が協働で行う活動が生徒の学習意欲の向上につながることで、学習継続の動機になることが分かった。

3. WSP の意義と今後の提言

在タイ日本国大使館のタイ国内在留邦人数調査統計によると、現在タイには約 65,000 人の日本人が在留している。その内訳は、バンコクで約 46,000 人、上位 5 県で 89.2% を占める。この上位 5 県にタイ東北地域は入っておらず、TJL 学生が実習や活動をする地域では日本人と日常的に出会える機会はほとんどない。東北地域の中等学校では日本語を教えるはいるが、生徒にとってその日本語の使用機会は限られており、動機づけや学習意欲を育むことが課題となっている。このような状況の中で、若い WSP 学生がタイ東北地域の学校を同年代の TJL 学生と共に訪問し、児童生徒たちと交流することは、児童生徒の動機づけや学習意欲の向上という面から非常に意義のあることであり、今後も継続すべきだと考える。

一方で、生徒への影響のみならず、将来 NNS 日本語教員となる TJL 学生にとっても日本人と協働で授業や活動を作り上げていくことは日本語能力の向上と日本の若者を知るという点で意義があった。日本語教育を学ぶ TJL 学生にとって、タイのことをあまり知らない日本人に対して自分たちの状況を詳しく日本語で説明しなければならないという課題は、日本語だけではなくタイという文脈そのものに関しても深く考える機会となった。また、日本語で WSP 学生と教え方や内容について話し合うことは、より実践的な学びの場となった。WSP 学生のアイディアに触れ、お互いの意見をすり合わせ、実際に活動を行うことで、TJL 学生にとっては、その後の実習に対する授業の組み立てや活動などを考える機会となった。

その他に、WSP 学生を受け入れることによって教育学部指導教員と訪問校の担当指導教員及び TJJ 学生との接触が増え、意見交換を頻繁に行うようになったことでつながりが密になった。

WSP 学生と協働で行う教育実習並びに日本プロモーション活動は、TJJ 学生の実践力の向上や児童生徒の学習の動機づけや意欲向上に非常に有益であった。そして、これらの活動は TJJ の既存の活動であり、運営という面でも教職員、学生の負担が少なかった。今後も複数の中高等学校で日本語キャンプや日本語・日本文化プロモーション、教育実習生とのティームティーチングなどを NS 学生と行っていけるように希望する。また、日本語や日本語教授法に関する情報交換や共同でのワークショップを開催することで、現職の中等教育日本語教員、TJJ 教育実習生、大学教員のブラッシュアップと大学間、教員間の交流がますます深まっていくことを期待する。

最後に、TJJ の活動に様々なご尽力とご配慮をくださった WSP コーディネーター鈴木伸子先生と事務局の方に深く感謝申し上げる。

参考文献

在タイ日本国大使館 <<http://www.th.emb-japan.go.jp/jp/consular/zairyu14.htm>> (2016 年 9 月 10 日)

(たかはし みき コンケン大学教育学部)

(すやらー わっちゃらー コンケン大学教育学部)